

2006年10月 松坂屋月次営業報告

1. 店舗別売上高(対前年増減率)

	売上高(%)	構成比(%)	入店客数(%)	営業日数増減
名古屋店	4.0	48.9	2.4	±0日
岡崎店	3.9	1.9	6.7	±0日
名古屋駅店	2.5	4.6	2.7	±0日
豊田店	4.7	3.6	5.7	±0日
高槻店	9.2	5.9	8.8	±0日
上野店	1.5	18.5	1.5	±0日
銀座店	4.8	5.7	5.2	±0日
静岡店	3.6	10.9	1.0	±0日
合計	3.4	100.0	1.0	

2. 商品別売上高(対前年増減率)

	売上高(%)	構成比(%)
紳士服・洋品	2.0	7.8
婦人服・洋品	1.6	31.5
子供服・洋品	2.0	2.5
その他衣料品	6.5	4.2
衣料品計	1.9	46.0
身の回り品	8.5	10.8
化粧品	2.4	3.1
美術・宝飾・貴金属	12.5	6.2
その他雑貨	5.6	6.1
雑貨計	7.6	15.4
家具	20.2	2.3
家電	21.8	0.7
その他家庭用品	34.4	5.4
家庭用品計	7.6	8.4
生鮮食品	4.1	4.2
菓子	5.0	5.3
惣菜	5.4	4.4
その他食料品	15.4	2.6
食料品計	1.0	16.5
食堂・喫茶	5.7	2.1
サ－ビス	30.6	0.6
その他	48.1	0.3
合計	3.4	100.0

3. 商況概況

< 主な店舗別売上高概況 >

・全店売上高は対前年+3.4%。入店客数の対前年は+1.0%。前年実施を上回った店舗は、名古屋店、豊田店、高槻店、上野店、銀座店、静岡店。

初旬は気温の高い日が続き、秋冬物衣料を中心に苦戦したが、全店で中日ドラゴンズ優勝記念セールを開催し、売上を伸ばした。

・名古屋店は対前年+4.0%。中日ドラゴンズ優勝記念セールや25日にオープンした北館地下1階レストラン街「レ・シ・ビ」による集客効果で売上、入店客数とも伸ばした。

・上野店は各館の上層階の改装も完了した。また、地域に密着したコラボレート催事を開催し賑わいを見せた。

・豊田店、高槻店、銀座店、静岡店は改装した売場が好調に推移したことに加え、優勝記念セールの効果で前年に対しプラスした。

・岡崎店は大型催事の開催期間変更、名古屋駅店は前年の万博催事の反動でマイナス。

・外商部門は、法人、個人とも大口・高額受注が好調で前年にプラス。

< 主な商品別売上高概況 >

・婦人服・洋品は、特選ブランドは低調だったが、ミセス・ヤングともボリュームゾーンが好調に推移した。身の回り品は、婦人靴、

ハンドバッグを中心に好調。美術・宝飾・貴金属は高額品が好調。

家具は前年外商部門の大口受注の反動で大幅減。その他食料品は前年外商部門の大口受注の反動と食品ギフト券の計上方法変更により大幅減。家電は催事の変更により大幅減。

(注) 1、2表とも、構成比の合計は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

2006年10月 横浜松坂屋月次営業報告

1. 店舗別売上高(対前年増減率)

	売上高(%)	入店客数(%)	営業日数増減
横浜松坂屋	1.0	1.7	±0日

2. 商品別売上高(対前年増減率)

	売上高(%)	構成比(%)
紳士服・洋品	17.0	4.7
婦人服・洋品	2.2	22.3
子供服・洋品	100.8	6.1
その他衣料品	76.4	3.5
衣料品計	12.6	36.6
身の回り品	1.2	3.0
化粧品	2.5	3.3
美術・宝飾・貴金属	12.7	7.7
その他雑貨	1.7	0.8
雑貨計	9.4	11.7
家具		0.2
家電	57.0	2.0
その他家庭用品	13.8	1.9
家庭用品計	41.0	4.1
生鮮食品	3.1	13.0
菓子	2.8	4.4
惣菜	2.4	8.2
その他食料品	35.9	1.6
食料品計	4.9	27.2
食堂・喫茶	0.7	2.1
サービス	5.9	6.5
その他	0.4	8.8
合計	1.0	100.0

3. 商況概況

< 主な売上高概況 >

・売上高は対前年 1.0%。
 食品ギフト券の計上方法変更を修正した対前年は+0.2%。
 ・入店客数は3月から7ヶ月間前年を上回っていたが、本月は各種イベントを行うものの 1.7%。
 ・当社は横浜ベイスターズを応援している為、ドラゴンズセールは開催せず。

< 主な商品別売上高概況 >

・前年実績を上回ったのは、子供服・洋品、その他衣料品、サービス。

子供服・洋品は、入札品の大口受注により前年を大幅増。
 その他衣料品は、新規の呉服催事「大西陣展」の実施により前年を大幅増。
 サービスは、各種テナント部門の好調による。

・前年実績を下回ったのは、紳士服・洋品、家電、その他食料品。

その他食料品は、食品ギフト券の計上方法変更により大幅減。
 家電は、前年の外商大口受注の反動でマイナス。
 紳士服・洋品は気温が高くコートなど重衣料の売れ行きが鈍く減。

・外商部門は大口入札受注が好調な法人部門が大幅増。

(注) 2表の構成比合計は、計算処理上必ずしも100%にはなりません。

お問い合わせ先 (株)松坂屋ホールディングス (名古屋) 052-264-7028
 広報・IR室 (東京) 03-3572-1201

Matsuzakaya
 HOLDINGS